





『女性蔑視、で結婚3回…』 米大統領候補の 仰天過去&素顔 ドナルド・トランプ

69

TRUMP

aldjTrump.com ★ @realDonaldTrump

Cedar Rapids, Iowa

MAKE AMERICA GREAT AGAIN!

アイオワ州の予備選で、24歳下の妻・メラニア夫人と支持を訴えるトランプ氏

「あの顔を見てみろ！ 誰があんな女に投票するかな？」
ライバルの共和党女性候補者に、こんな暴言を吐いた、
ドナルド・トランプ氏（69）。
総資産5千400億円という不動産王は、米国大統領選の共

泡沫候補が、あれよあれよと「本命」に。だが、女性蔑視に排外発言で世界中が「この人、ヤバそう」と思いうトランプ氏にも、意外な「秘めた恋」があつて……。

和党候補者として目下、支持率トップを走っている。

米国在住41年で「なぜヒラリー・クリントンを大統領にしないのか？」の著書もある

ジャーナリスト・佐藤則男さんは、こう語る。

「彼はセレブ美女を好きない

っぽうで、そうではない女性を酷評し、ぞんざいな態度を取ることで有名です。

女性を単なるお飾りとしか

に目に余るのが、女性蔑視、
をさらけ出るものだ。

「（メディアに）何を書かれ
たって、若くてきれいな女が
いれば、たいしたことはない
んだ」

こんなのは序の口で、気に
入らない女性は「太ったブタ」
「汚らわしい動物」呼ばわり。

テレビ討論会で女性アンカ

ーマンに厳しく突っ込まれた
腹いせに、別番組で「彼女の
目は血走っていた」と、生

血が噴き出していた」と、生
理を揶揄して、再び猛烈な批
判を受けた。

彼の「口撃」は、日本に対
しても容赦なく発射される。
「アメリカのおかげで日本が

生きていらざることをわから
せる必要がある」

「日本は何十万台、何百万台
ものコンピュータや車などを
売りに来るが、日本人はわれ
われに食料を売らせない」

「ザラ風ブロンドヘアの赤ら
顔で吠えまくる姿は、恐れを
知らぬ暴君そのものだ」

そんなトランプ氏の私生活
はというと、結婚歴3回で子
供は5人いる。

最初の妻は、「77年に結婚し
て3児をもうけたモデルのイ
ヴァナさん（67）」。'92年に離婚
し、次に不倫相手だった女優
のマーラさん（52）と'93年に
結婚。娘が生まれたものの'99
年に離婚した。

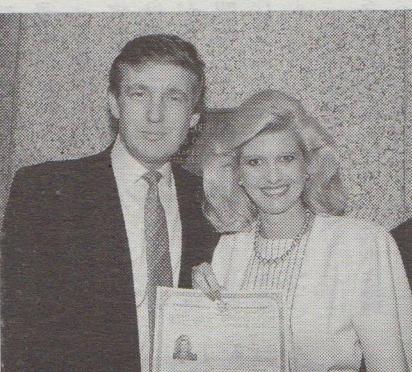
雄二さんが言う。「トランプ氏がたつた1人落
とせなかつたのが、故ダイアナ元妃でした。

彼は、離婚後に一時米国に
住んでいた彼女にアプローチ。
家に何度も花束を贈り、デー
トに誘つたのですが、相手
にされなかつた。彼は自伝に
も「女性との別れで唯一、後悔
している別れがあつた。そ
れはレディ・ダイアナ・スペ
ンサーと交際する機会がなが
つたことだ」と書いています」

金に物を言わせて口説こう
としても、誇り高き「英國の
薔薇」は、はなもひつかけな
かつたようだ。

現夫人のメラニアは、「24歳
も年下だが大学で建築を学ん
だ知性派だ」。

大統領選のキャンペーンに
も登場し、さらに夫のブレー
ン役も担つているという。2
月に放送された報道番組のイ
ンタビューでは、こんな発言



1人目の妻・イヴァナさんと結婚していた'88年当時。意外に(?)ハンサム！

金満攻勢も…本気で狙つていた

多忙アナ元妃

享年36

との再婚!!



「眞のプリンセス」とトランプ氏は自著で絶賛

業を引き継いだだけのボンボン」と言われています。

無名で起業しようとすれば、ビル・ゲイツもステイーブ・ジョブズもそうだったように、初期投資費用集めにいちばん苦労する。しかし、親から譲り受けた資産があるトランプ氏は、その苦労を知らない。

ですから、彼は親の金で土地転がしをして儲けた「甘ついた野郎」とバカにされていましたよ。

(北丸さん)

また4年前に、彼の女性秘書とも話しましたが、彼女は自分のボスであるトランプ氏を「どうしようもない人」『会議は欠席するし、電話にも出ない。机の上は乱雑でビジネスマン失格』と酷評していました。

一代で切り開いた成功者でもなければ、女性蔑視のビッグマウス。それでも、支持されるのはなぜなのか?

「マスコミが面白がってトランプ氏を報じたのが、人気を拡大させた一因でしょう。テレビがまず、目立ったが

り屋の彼に目をつけました。

90年代後半に人気を博したのが、トランプ氏がホスト役のリアリティ番組『アプレンティス』シリーズ。この番組で一躍、人気者になりました。

今回の選挙戦でも、彼の暴言やとんでもない主張をマスコミが面白がって報じているうちに、「なかなかいいことも言つてるじゃないか」と支持が集まつてしまつたんです

(北丸さん)

そして、意外にも女性からの人気も決して低くない。「都会の知的な女性はもちろん、彼を支持しません。ただし、共和党が強い田舎の保守的な女性は、民主党のヒラリー氏よりもトランプ氏を支持しています。支持者の女性は「女性蔑視には目をつむる。国のこととき一番に考えているように見えるから」と言っていますね」(北丸さん)

大統領選前半の山場を越えても、勢い止まらぬトランプ氏。まさかの「トランプ大統

領」が誕生する日が来る!?

NYのトランプ・ワールド・タワー。ビル・ゲイツやビヨンセが住む
「私はニュースをチェックしていることも話す」
毎日数回、彼と電話している。
彼からかけてくることもあるし、会話では私自身が思つて
いることを話す」
愛妻の強力サポートもあって、米国民のハートをつかみつつある、トランプ氏。
しかし、彼のとっぴな言動を見てくると、とても大統領にふさわしいとは思えない。いつたい本当の彼は、単なるバカ! それとも卓越トランプ氏と会ったことがある日本人は非常に少ないが、その1人が国際経営コンサルタントの植山周一郎さん。実際に会った印象は――。

植山さんは'88年6月13日、当時41歳だったトランプ氏にインタビューしている。

「すでに不動産王として成功していた彼は、なかなか会えない雲の上の存在でした。知人が彼と交流があつた縁で、インタビューに成功しました。

彼はとてもバカには見えない、優れたビジネスマンといふ印象でした。日本人の私はフレンドリーに話してくれました。トランプ氏と会ったことが、日本人はお得意さん。日本

佐藤さんによると、トランプ氏について大学の同窓生は酷評しているという。トランプ真っ最中で、日本人がトランプ氏のマンションを買っていましたから、彼にとつて日本人はお得意さん。日本人はお得意さん。日本